

テキスタイルの良さを製品の良さに

山田裕司・山長(株)社長

会社概要

■業務内容 紳士並び婦人服地製造販売、製品OEM

■創 業 1909年(明治42年)

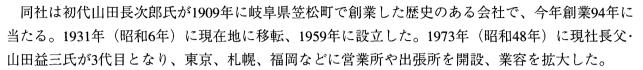
■設 立 1959年(昭和34年)

■最新年商 約10億円

■本 社 愛知県一宮市奥町字蘇東55番地

■従 業 員 20名(含むパート2名)

⊾■ブランド Primo bene



1982年(57年)に社名を山長毛織から現社名の「山長」に変更、翌83年には社屋を建設(現ビルは平成元年建設)している。益三氏は国内で販路を拡大するほか、海外輸出も意欲的だったが、欧州テキスタイル展の岐路、成田空港で突然倒れ、不帰の人となった。妻の悦子さんが、急遽社長に就任、1997年(平成9年)裕司氏が社長に就任するまで、社業を支えた。

山田さんは1958年(33年)生まれの45歳。持論は「チャレンジ」で新たなる事業領域開発に意欲的だ。もちろん「本業を固めつつ、攻める」というもの。若手経営者としてリーダーシップを発揮している。

最新年商の内訳は紳士服地60%、婦人服地・製品(OEM中心)40%だが、紳士服地はスーツ向け70%、カバーオールを含むカジュアル素材30%で、最近はカジュアル向けが拡大している。輸出に

も意欲的で、「メゾンルートに 直接売り込む」ことを主眼に、 年2回開発素材を提案してい る。

同社の知名度を飛躍的に高めたのが、経済産業省の繊維川中「自立事業」の初年度認可会社になったことだ。Primo bene(プリモーベーネ=最高に幸せの意味)で35~45歳をターゲットにした婦人服を展開する。山田さんは「生地が欧州で評価されても、値段が高く商売につながらないジレンマがあった。日本でも



同様で、それなら欧州で評価された生地を自社で製品化しようと決意した」と語る。

このプロジェクトのための「ナイスミドルネットワーク」も結成した。山長の新たなる挑戦の第一歩である。山田さんは5年後の姿を問われて「売り上げ構成はテキスタイル20~30%、製品70~80%|と語った。「テキスタイルの良さを製品の良さにしたい」と熱き思いを話す山田さんだった。